



杉戸中央ロータリークラブホームページ <http://www.sugito-chuo.com>

第765回 例会2010. 2. 4

司会 細井会員

点鐘 小柳パスト会長

君が代・ロータリーソング 奉仕の理想

四つのテスト唱和 渋谷会員

ロータリーの綱領唱和 浜名幹事

幹事報告

浜名幹事

- 3/28「ロータリーの歴史」、4/22「クラブ活性化の手法」というテーマで管理運営部門委員長の瀧田様よりプロジェクターを用いての卓話がございます。皆様のご出席をよろしくお願いいたします。



- 2月20日(土)IM(インターシティミーティング)がございます。全員登録しておりますので、皆様の出席をよろしくお願い致します。尚、集合等につきましては、またご連絡いたします。

ロータリーの友勉強会

武井会員

今月は、RI 会長メッセージより、ご紹介いたします。私たちは、幾度か「ロータリーって何？」と聞かれたことがあると思います。その時、私たちは何と答えたらよいのでしょうか。RI 会長はどのように答えているのかご覧下さい。



一番短くて簡単な回答は、「ロータリーは世界中で最も古くからある奉仕クラブの組織である」とい

う説明です。しかし、これは必ずしも正確な回答とはいえません。個々のプロジェクトで、ロータリーに所属する私たちが、どのように努力をして目標を上回る成果を挙げてきたかという説明も含んでいなければならないからです。そして、クラブ・地区・国際的に、ともに活動することによって私たちは友情、信頼、誠実、希望といった、より良い社会の純然たる基礎を築こうと努力しているのです。



「水」「保健と飢餓追放」「識字率向上」といった私たちの奉仕活動は、平和に対する現実的な障害を取り除くのに役立ちます。そして、R 財団や青少年交換プログラムは、より平和な世界をつくる担い手としての明日のリーダーたちを養成するという一歩先の段階を見据えています。

もし、私たちがポール・ハリスの「国家間の好意を促進する組織としてのロータリー」というビジョンを理解しているなら、「相互理解と好意が、恐れや憎悪に取って代われるほど、人々の心は動かされやすく影響を受けやすいものに違いない」ことに理解できます。

今月の「世界理解月間」にあたって、私たちはこの言葉を心しておかなければなりません。また、それと同時に、私たちのすべての奉仕活動においても、親睦・理解・平和という、より大きな目標に手を伸ばすことも心に留めておかなければいけません。



P16 の「楽しい例会とは何か」より抜粋します。

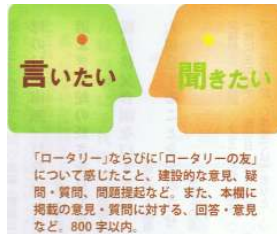
例会とは、各自の職業の真の意味を理解し、職業の向上を目指し、この志を同じくする者が集まる機会である。従って、職業を向上させるプログラムが存在しているのが例会であり、このこと自体を楽しむことこそが楽しい例会の在り方であって、ロータリーとしての楽しい例会とは、決して笑いの多い例会でも、レジャーが多い例会でもないような気がします。例会をこのようにもてば、会員の質の向上につながるのですから、会社や家族にも理解され、むしろ進んで例会に送り出すようになるのではないのでしょうか。ただし、勉強や訓練ばかりでは嫌になりますから、親睦活動も大事となります。会員増強とは、このような例会が存在することを他の人にも知らせ、職業を向上させようとしている仲間を入れること、ではないのでしょうか。

P16「ロータリーの倫理の大空に」より、今の不祥事氾濫の社会情勢を嘆いての意見から。

もし不祥事にかかる会員が存在しても仕方がないとか、それは、個人の資質の問題だから、ロータリーのあずかり知らぬこと、との認識がある。しかし、知らぬ、存ぜずあずかり知らず、で済まされる問題ではない。

ロータリーの究極は、「人づくり」「自分づくり」の世界であり、高度の倫理性を備えた会員の人格形成にある。従って、その責任は個人の精進にもあるが、当然クラブの指導にもかかわることで、クラブの倫理性の問題でもある。日本のロータリーは今、クラブを超え地区をも越えた広域で高度な倫理意識の高揚を、継続的に推進する必要に迫られているのではないだろうか。

今年度のジョン・ケニー国際ロータリー会長の言葉「ロータリーをロータリアンに返したい」は、ロータリアンの心にロータリー不在または欠落の懸念を警告する言葉として深刻に受け止めるべきであり、それを超越してこそ「ロータリーの未来は私たちの手の中」で確かなものとなるのではなかろうか。



会長の時間

私は、「勉強会」と称するサークルになるべく顔を出すようにしています。その中で、昨年の暮れに「最大限の努力をして、最小限の成果を求める」というテーマがありました。

私は、会社の30代40代の中堅スタッフである10名くらいのリーダーたちに、この言葉についてどのように思うかというメール発信いたしました。その回答は、千差万別でありましたが、「最大限の努力をしたのなら、最大限の成果を求めるべきだ。」という意見もありました。

正解というのはありません。しかし、私どもの勉強会では、「最大限の努力をして、最大限の成果を求めようすると、どうしても無理が発生するのだ」という結論に達しました。日本人的な考え方であると、私は思いますが、このような考え方が好きです。最大限の努力に最大限の成果は、ちょっと欲張りすぎでしょう。そんなに世の中甘くないよと、ということです。それよりも最小限の成果でもやっつけられる確実な運営や、心のゆとりのようなことを言わんとしているのではないかと考えています。

社員の回答が様々であったことから、会社のトップだけが勉強会に参加するのではなく、会社を背負っていく中堅スタッフも参加し、会社のモラル向上をはかることが大切だと思いました。

1・2月生まれ会員・夫人誕生祝い 細井会員

中野会員(1/6) 矢島会員(2/11) 新井会員(2/12)
栗田会員(2/18) 浜名会員(2/20)
新井澄子様(1/2) 渡辺真砂子様(1/2)
高橋佐恵子様(1/9) 中野和恵様(1/22)
栗田和子(2/1)

出席報告・スマイル報告 細井会員

会員数	出席	欠席	MU	出席率
25	8	17	9	68.00%

小柳会員:早いもので今年も2月となりました。先日浅草を歩いていたら梅の花が咲いていました。

新井会員:22年2月2日初雪、豊作の前兆か。

矢島会員:立春といえ、寒さはこれからです。

渋谷会員:武井会員:浜名幹事:細井会員:真中会員

小柳パスト会長

